

完了報告書

日本財団 会長 笹川 陽平 殿

報告日付:2023年5月8日

事業ID:2022005322

事業名:山口・海ごみゼロ維新プロジェクト(CFB・海と日本2022)

団体名:海ごみゼロ維新プロジェクト実行委員会

代表者名:國安 克行

TEL:083-923-8200

事業完了日:2023年3月31日



■契約時

事業費総額	:	12,210,000 円
自己負担額	:	0 円
助成金額	:	12,210,000 円

■箇所は【フォーム】収支計算書より自動転記

■事業完了時

事業費総額	:	12,210,000 円	収支計算書の黄のセルの値
自己負担額	:	0 円	収支計算書の緑のセルの値
助成金額	:	12,210,000 円	収支計算書の赤のセルの値。千円未満は切捨
助成金返還見込額	:	0 円	(収支計算書の青のセルの値)

1.事業内容

助成契約書記載の事業内容(予定)と、事業完了時の事業内容(実績)を対照可能とするため、助成契約書と一緒に綴じている「事業計画」の事業内容欄を転記した上、体裁を変えずに結果を記入してください。なお、事業内容を複数設定している場合は、各事業内容ごとの完了時の実績を個別に記入してください。事業内容が4つ以上ある場合は、一つの事業内容ボックスに複数ご記載頂いて構いません。

■事業内容1

(1)助成契約書記載の事業内容(予定)

1. 海洋ごみ削減ロボットの活用
 (1)場所:山口県内沿岸地域
 (2)参加:九州大学等の学生
 (3)内容:清掃サポートロボットと連携したイベント

(2)事業完了時の事業内容(実績)

1-a. 海洋ごみ削減ロボットの活用
 ⇒「ロボットビーチクリーン【第1弾】」
 (1)場所:山口県下関市豊北町阿川
 (ほうせんぐり海浜公園)
 (2)時期:2022年6月
 (3)参加:BC-ROBOP・九州大学・九州工業大学・長崎大学・北九州市立大学・下関市立大学・地元住民・地元の子どもたち
 (4)内容:自動制御が可能なごみ運搬ロボットを活用したビーチクリーンイベントの実施



(3)成功したこととその要因

九州山口地方の多くの大学生に参加してもらい、学術的な視点からも未来の海を守るために必要なこと、課題解決方法などを模索することができた。また、ロボットとビーチクリーンを行うという非日常的な体験で、参加者からも好意的な声をいただき、今後のモデルとして示すことができた。

(4)失敗したこととその要因

(5)事業内容詳細

別途提出する事業報告書を参照

■事業内容1

(1)契約時の事業内容

1. 海洋ごみ削減ロボットの活用
(1)場所: 山口県内沿岸地域
(2)参加: 九州大学等の学生
(3)内容: 清掃サポートロボットと連携したイベント

(2)事業内容の実施(完了)状況

1-b. 海洋ごみ削減ロボットの活用
⇒「ロボットビーチクリーン【第2弾】」
(1)場所: 山口県周防大島町安下庄
(立岩海岸)
(2)時期: 2023年1月
(3)参加: 周防大島町長、大島商船高専学生、地元住民、地元の子どもたち、ロボット開発者(田中獅礼君<we are SDGs kids>・沖繩/天の枝・東京/CuboRex・和歌山/太陽建機・山口/仙台高専・宮城)
(4)内容: ロボットビーチクリーン第1弾をパワーアップさせ、全国からユニークなロボットを集結させて清掃活動を実施



(3)成功したこととその要因

合計で5台のビーチクリーンロボットが集まった。参加者も多く、チームごとに分かれて戦略を立てながらビーチクリーンを行い、最後は集めたごみの量で競うゲーム形式にしたため盛り上がりを見せた。

(4)失敗したこととその要因

契約時は当初、9月頃の実施を見込んでいたが、新型コロナウイルス感染拡大とロボットを所有する協力先の参加可能日の調整により、事業期間の延長が必要になり、実施日を2023年1月14日(土)に変更した。

(5)事業内容詳細

別途提出する事業報告書を参照

■事業内容2

(1)契約時の事業内容

2. 地元団体・催し等と連携した周知啓発
(1)時期: 通年
1. 海洋ごみ削減ロボットの活用
(2)内容:
a. 南日本放送(海ごみ特集番組制作)
b. 自治体(清掃ボランティア用ごみ箱設置)

(2)事業内容の実施(完了)状況

2. 地元団体・催し等と連携した周知啓発
⇒薩長海ごみゼロ同盟「拾い箱」プロジェクト
(1)場所: 山口県宇部市西岐波白土
(白土海水浴場)
(2)時期: 2022年11月
(3)参加: 宇部市、野田学園高校1年生、西岐波中学校生徒、地元住民、地元の子どもたち
内容: 県内2基目となる「拾い箱」の設置および、発案者である与論島・池田龍介氏から直接「拾い箱」の使い方を参加者にレクチャー。特番ロケも同時に実施。



(3)成功したこととその要因

2021年度事業で初めて「拾い箱」を設置した時は、地元の小学生のみを招いたが、今回は市外からも高校生の参加があったほか、多くの地元住民、子どもたち、市関係者も参加し「拾い箱」の意義を広く啓発することができた。

(4)失敗したこととその要因

(5)事業内容詳細

別途提出する事業報告書を参照

■事業内容3

(1)契約時の事業内容

3. 企業との連携
(1)時期:通年
(2)内容:
a. プロトタイプ製作1件
b. プロモーション

(2)事業内容の実施(完了)状況

3.企業との連携
⇒地酒「杉姫」を製造販売する「山城屋酒造」との連携
(1)時期:2023年2月～3月(新酒として発売)
(2)内容:
a.成果物:「西のお伊勢様」として地元で親しまれている山口大神宮から湧き出る天然水を使用した日本酒に海洋ごみ削減を呼びかけるラベルを貼り、オリジナルボトルを発売
b.プロモーション:
日本酒「杉姫」オリジナルボトルの販売
(販売期間:2023年2月～3月・新酒として発売)



(3)成功したこととその要因

当実行委員会としては初めての日本酒を製造・販売する企業との連携だった。山口は、日本酒が有名で県民の関心度も高いため、その分野で啓発できたのは効果が大きかったと考える。また、新酒とコラボさせていただき、プロモートもよかった。

(4)失敗したこととその要因

(5)事業内容詳細

別途提出する事業報告書を参照

■事業内容4

(1)契約時の事業内容

4. 清掃活動
(1)時期:通年
(2)場所:山口県内5か所以上
(3)参加者:県民10,000名以上
(4)内容:清掃サポートロボット連携等

(2)事業内容の実施(完了)状況

4. 清掃活動
(1)時期:通年
(2)場所:山口県内5か所以上
⇒山口市、下関市、長門市、宇部市、周防大島町で開催
(3)参加者:県民10,000名以上
⇒のべ9,400人が参加
(4)内容:児童・地域住民・企業・団体とロボットなどを連携させた清掃活動



(3)成功したこととその要因

公立小学校や行政、企業、団体と協力して行うことで多くの人を巻き込み、清掃活動を行うことができた。また、ロボットを活用したビーチクリーンイベントなど通常の清掃活動とは一風変わった取り組みを行うことで老若男女問わず、より多くの方の参加を促すことができた。

(4)失敗したこととその要因

(5)事業内容詳細

別途提出する事業報告書を参照

■事業内容5

(1)契約時の事業内容

5. 映像制作と放映

(1)時期:通年

(2)内容:海洋ごみを扱った10本以上の映像制作・放映

(2)事業内容の実施(完了)状況

5. 映像制作と放映

(1)時期:通年

(2)内容:海洋ごみを扱った10本以上の映像制作・放映
⇒啓発動画(TVCM)、TV報道、また日本財団様
海プロ関連のTV番組露出など併せて14本を放映



(3)成功したこととその要因

啓発動画(TVCM)については、県内で海洋ごみ削減に奔走する団体・ボランティアの方々に焦点を当てたり、老若男女に分かりやすくアニメ形式での動画を制作・放映したりして、広く啓発を行った。
また、当団体で開催したイベントや日本財団様海プロ関連映像を丁寧にTV露出することで、我々の取り組みや海プロの取り組みを県民に広く周知広報した。

(4)失敗したこととその要因

(5)事業内容詳細

別途提出する事業報告書を参照

2. 契約時事業目標の達成状況:

(1)助成契約書記載の目標

①海洋ごみ対策として県民が山口の海洋ごみだけでなく、全国、世界の海ごみに関心を持つようアクションを起こす。そのうえで、山口におけるプロジェクトを主導し、海洋ごみ事情に目を向け、世界の問題である漂着ごみ削減に向けて情報交換・分析をする。
②拾い箱や出前授業など事業も付随して展開し、7000人の参加者を獲得する。

(1)助成契約書記載の目標

①海洋ごみ対策として県民が山口の海洋ごみだけでなく、全国、世界の海ごみに関心を持つようアクションを起こす。そのうえで、山口におけるプロジェクトを主導し、海洋ごみ事情に目を向け、世界の問題である漂着ごみ削減に向けて情報交換・分析をする。
②拾い箱や出前授業など事業も付随して展開し、7000人の参加者を獲得する。

(2)目標の達成状況[700文字以内]

入力文字数	619	文字数チェック	OK
<p>2022年度の活動を通して、社会課題に向き合うとともに新たなビーチクリーンモデルの形成など幅広い事業を行った。新型コロナウイルスの大きな影響を受けることなく、計画した事業・イベントを実施できた点もよかったと思う。</p> <p>昨年度の柱の一つとなったロボットを活用したごみ拾いモデルは、ともに高齢者の多い地域で2度にわたって開催した。どちらもロボットとごみ拾いをするという非日常の体験を味わうことで驚きとともに、少子高齢化問題が海洋ごみ問題にも影響を与えていることを県民に実感していただけたと自負している。</p> <p>また、清掃活動参加人数については、県内2基目の「拾い箱」を設置することで、県民が自主的にごみを拾い、目標人数に達することができたと考えている。</p> <p>2021年度に「拾い箱」を設置した山口県防府市からも地元住民に活用されており、海水浴場がきれいに保たれていると好意的な意見をいただき、設置が継続している。</p> <p>イベント・清掃活動に参加できなかった県民に対しては、海洋ごみ問題の現状、きれいな海を未来に残すために私たちができることを特別番組・啓発動画・ニュース露出などの映像を通して幅広く伝えることができた。</p> <p>オリジナルコラボ商品については、海にも通じるきれいな水をヒントに、日本酒の製造販売を行う酒蔵とコラボした。きれいな水でなければ美味しい日本酒を造ることはできず、また新酒の時期にコラボ商品の発売を合わせたことで、注目度も高かった。</p>			

3.事業実施によって得られた成果

<p>2022年度事業を通して、子どもから大人まで幅広い年代に「CHANGE FOR THE BLUE in 山口」の活動の意義、世界・日本・山口の海の現状を伝えることができたと考えている。</p> <p>昨年度はロボットを使ったビーチクリーン活動や、高校生に向けた特別授業も行い若い世代へのアプローチも積極的に行った。</p> <p>ロボットビーチクリーンについては、まだまだ実用化への道のりは長いと感じるが、我々の事業でロボットビーチクリーンを経験した子どもたちがそこから未来のごみ拾いモデルのヒントを得て、10年後に実用していることを目指すべく、活動を続けていきたい。</p> <p>また、広報・啓発の中で伝えたことを県民に自分事化してもらいながら、私たちもさらにきれいな海を守るためのフォローをしていかなければならないと感じている。</p> <p>拾い箱プロジェクトについても、今後は自治体が自ら設置に動き出せるような座組を作り、活動に賛同する他団体と手を組みながらムーブメントの拡大を図っていきたい。</p>

4.活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案

<p>新型コロナウイルスについて、withコロナの風潮が一般的になりつつあるとはいえ、多くの人を集めての清掃活動やイベントは、まだまだ難しく、今後の実施方法について対応しなければいけないと強く感じた。</p> <p>また、単純な清掃活動を進めているだけでは、県民へのアプローチも代り映えないものになってしまうので、工夫を重ねながら、より自分事化できるような施策を推し進めていきたい。</p>

5.事業成果物

(1)助成契約書記載の成果物名称

実行委員会をテレビ山口が取りまとめ、事務局を設置することで取材・報道・営業と横断的にプロジェクトを支援するとともに、イベントの運営を行い、テレビ局の取材力と情報発信力を最大限に生かし、県内各地のイベントやプロジェクトの本質を発信し、ムーブメントを拡大させる。



(2)事業完了時の成果物名称

実行委員会をテレビ山口が取りまとめることにより、啓発動画や特別番組、ニュース報道の露出による海洋ごみ削減に向けた啓発を積極的に行った。それ以外にも拾い箱の制作、設置や企業との連携商品の考案・製造・販売を行った。

(3)未作成となった要因

(4)成果物を登録したウェブサイトのURL

【特別番組】

<https://fields.canpan.info/report/detail/28841>

【オリジナルコラボ商品】

<https://fields.canpan.info/report/detail/28842>